付属資料

資料 1-1 各種調査結果

（1）住民アンケート調査

① 目的

住民の日頃の交通行動や公共交通に対する要望・課題を把握するため、管内に居住する2,300 世帯を対象として、郵送によるアンケート調査を実施した。

② 実施概要

実施の概要は下表のとおりである。

表 1-1 住民アンケート調査の実施概要

調査対象	留萌管内に居住する世帯
調査期間	2022（令和 4）年 9 月 1 日（木）～9 月 18 日（日）
配布数	2,300 票（内、宛先不明による返送 13 票）
回収数（回収率）	980 票（回収率 42.9%） うち Web 調査は 107 票 1,917 人の方が回答（1 票当たり 1.96 人） うち Web 調査は 208 人
配布・回収方法	郵送配布・郵送もしくは Web 回答による回収

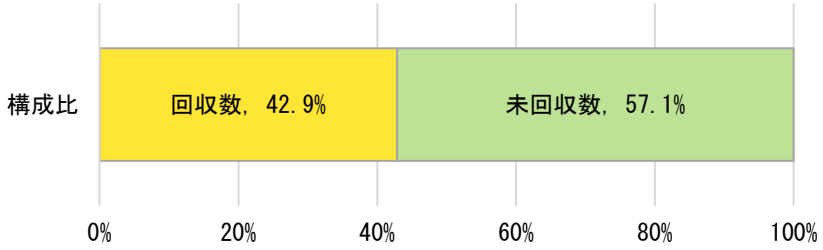


図 1-1 回収の状況

③ 結果の概要

質問	結果概要
基本属性	
Q1.居住地域	・「留萌市」が 4 割
Q2.最寄りのバス停は歩いて行こうと思う場所にあるか	・「ある」が 8 割強
Q3-1.世帯人数	・「2 人」が 4 割強、「1 人」が 2 割
Q3-2.世帯の年齢構成	・「40 歳以上」が 7 割
Q3-3.運転が困難な方の有無	・「いる」が 3 割
Q4.回答者の年齢	・「50 歳以上」が 7 割
Q5.回答者の性別	・「男」「女」がほぼ半分ずつ
Q6.回答者の運転免許の所持状況	・「持っている」が 7 割強
移動の状況	
Q7.普段運転できる車を持っているか	・「持っている」が 9 割
Q8-1.自家用車を利用する一番の理由	・「いつでも利用できるから」が 8 割強
Q8-2-1.何歳まで運転したいか	・75～84 歳が 6 割弱

質問	結果概要
移動の状況	
Q8-2-2.運転が困難になった場合の移動手段	・「バス等の利用」が 5 割
Q8-3.運転に不安を持つときがあるか	・「冬や長距離運転に不安がある」が 5 割
Q8-4.運転について、不安な内容	・「冬の運転が不安」が 5 割弱
Q8-5.事故を回避できる自信があるか	・「自信がある」が 4 割
Q8-6.免許返納の特典等があれば返納しやすくなるか	・「返納しやすくなる」、「少し返納しやすくなる」がそれぞれ 3 割弱
Q9.自分以外が運転する自家用車での移動状況	・「車を使用できない」が 1 割強
Q10.固定電話、携帯電話、スマートフォンの所持状況	・「スマートフォンを保有」が 5 割強
日常的な外出について	
Q11.公共交通の利用	・「特急はぼろ号」、「高速るもい号」が「年に数回の利用」がある
Q12-1-1.主な外出の目的	・「通勤」が約 5 割
Q12-1-2.曜日別の主な外出の目的	・曜日に関わらず多様な目的が見られる
Q12-1-3.平日、休日別の主な外出の目的	・平日は「通勤」、「通学」、休日は「観光」、「レジャー」
Q12-1-4.主な目的別の外出日数	・「買物」、「通院」は週に 1.4 日程度
Q12-2-1.家を出た時間、帰宅した時間	・出発は「8 時」が多く、帰宅は「18 時」が多い
Q12-2-2.平日、休日別家を出た時間、帰宅した時間	・出発時刻は「8 時」、帰宅は「18 時」が多いが、平日の方が家を出ている人数が多い
Q12-3.平日、休日別の外出時の行先	・「留萌市」が多い
Q12-4-1.行きに利用した交通手段 Q12-5-1.帰りに利用した交通手段	・「自家用車」が多くを占める
Q12-6.バスより少し高い運賃で、自宅と目的地を直接結ぶ公共交通が運行する場合、変えても良い曜日はあるか	・自家用車から公共交通への転換が 228 回
Q12-7.公共・公益施設の行先	・「留萌市立病院」、「留萌高等学校」、「マックスバリュ留萌店」が多い
Q12-8.大きな施設に行く場合の行先	・「留萌市立病院」、「マックスバリュ留萌店」が多い
今後の公共交通への要望等	
Q13.自家用車に頼らないとき、公共交通はどうあってほしいか	・「バスとタクシーの中間」が 3 割強
Q14-1.感染症拡大前と比べた公共交通の利用頻度	・「変わらない」が 4 割、「減った」が 2 割強
Q14-2.外出そのものが減ったか、公共交通以外の移動手段に変わったか	・「外出自体が減った」が 8 割
Q14-3.感染症流行が終息した後、公共交通利用促進のための有効な方策	・「対策なし」、「格安での利用」、「少人数による輸送」が比較的多い
Q15-1.路線バスの利用状況について	・「現在利用していないが今後は利用する」、「今後も利用しない」がそれぞれ 3 割

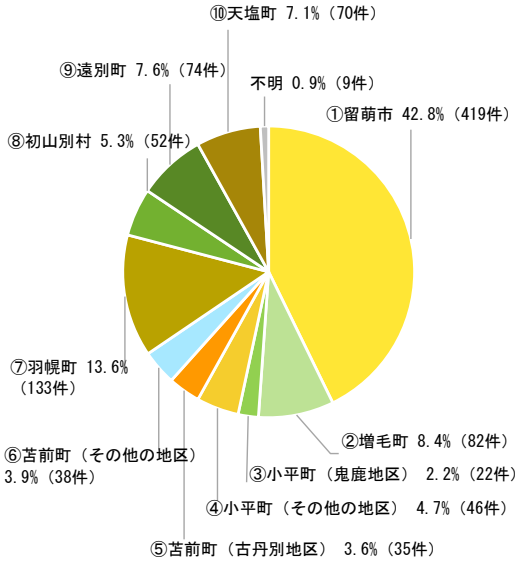
質問	結果概要
今後の公共交通への要望等	
Q15-2.路線バスの満足度について	・「始発時刻」、「運賃」、「乗り降りのしやすさ」は満足が多い ・「便数」、「待合環境」は不満が多い
Q15-3.電話予約型公共交通は利用するか	・「利用すると思う」が 3 割強
Q15-4.既に利用している場合、どの程度利用しているか	・「週に 1,2 回」、「月に数回程度」がそれぞれ 3 割
Q15-5.予約型公共交通が近隣市町村まで運行した場合、運賃が〇円高くなっても利用するか	・「200 円高くなっても利用する」が 8 割、「400 円高くなっても利用する」が 4 割
Q15-6.公共交通を維持するための方針について	・「税金による補填」や「長大路線の分割」についての理解度が高い
Q16-1.月 3,000 円、月 6,000 円の公共交通があった場合、利用するか	・「月 3,000 円であれば利用する」が 3 割
Q16-2.沿岸バスを利用する際の支払い方法	・「現金」が 3 割
Q16-3.10 日程度の往復運賃で 1 か月を通して利用できるバスがあった場合、利用するか	・「利用する」が 2 割強
Q16-4.パークアンドバスライドで温泉や食事の割引も受けられる場合、利用するか	・「利用する」が 3 割
Q16-5.バス運転手として就業を考える場合、バス会社が行うべき支援策	・「大型二種免許の取得補助」、「短時間勤務など勤務体験の運用」が比較的多い
Q16-6.公共交通にあると便利なサービス	・「割引サービス」、「乗り継ぎしやすさ」、「休憩待合室」が比較的多い

④ 調査結果

1)**基本属性**

Q1. 居住地域

回答者の居住地域は、「①留萌市」が 42.8%と最も多く、続いて「⑦羽幌町」が 13.6%、「②増毛町」が 8.4%となっている。



全世帯(n=980)に対する回答

図 1-2 Q1.居住地区

Q2. 最寄りのバス停の徒歩アクセス性

最寄りのバス停は、「①歩いて行こうと思う所にある」が 84.9%と最も多く、「②ない」は10.0%となっている。

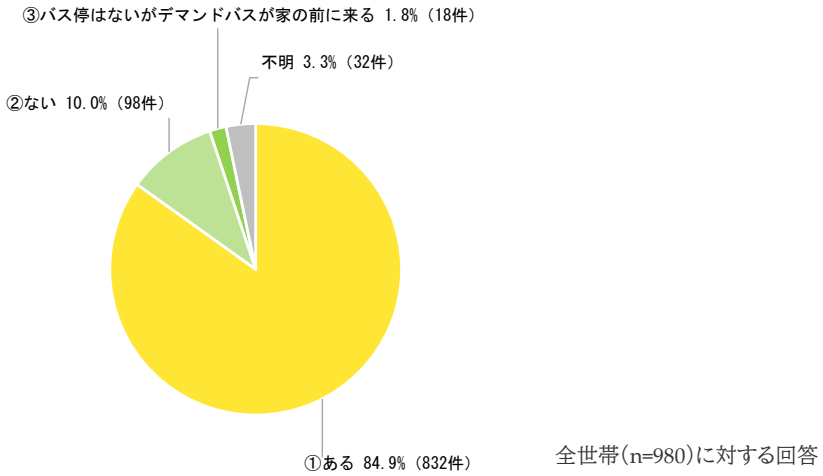


図 1-3 Q2.最寄りのバス停は歩いて行こうと思う所にあるか

【居住地域別】

地域別に見ると小平町（その他地区）において「デマンドが家の前に来る」と回答した割合が比較的に高くなっている。

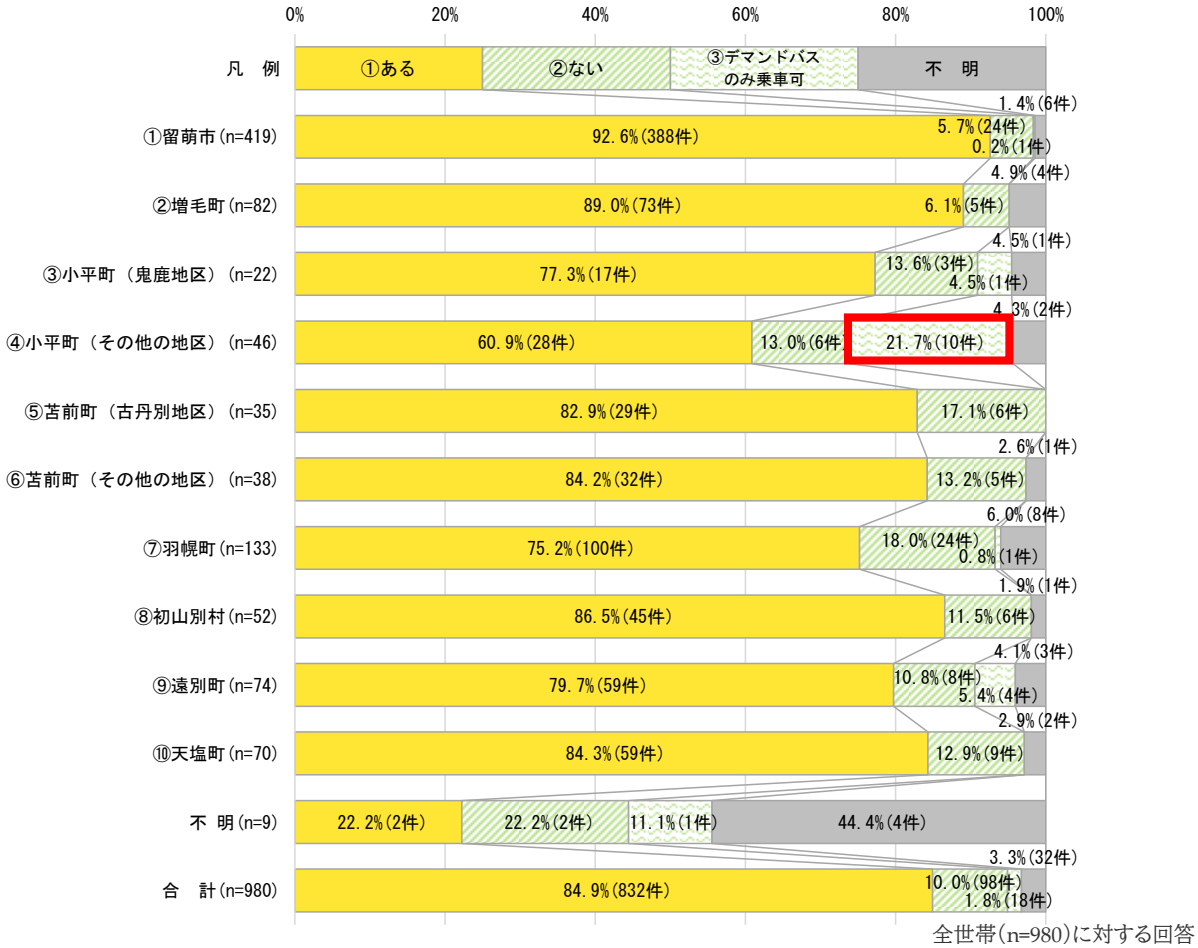


図 1-4 Q2.最寄りのバス停は歩いて行こうと思う所にあるか（Q1.居住地域別）

Q3. ご家族全員の人数と年齢構成別の人数等

世帯人数は「2 人」が 45.6%と最も多い。世帯の年齢構成は「40～64 歳」が 32.4%と最も多く、続いて「65～74 歳」が 20.5%、「75 歳以上」が 19.5%となっている。「65 歳以上」が占める割合は、40.0%である。

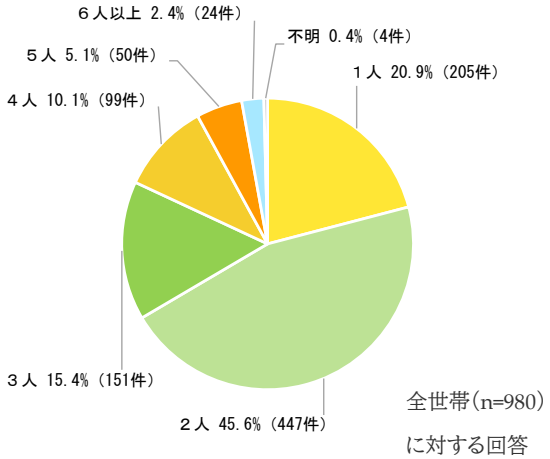


図 1-5 Q3-1.世帯人数

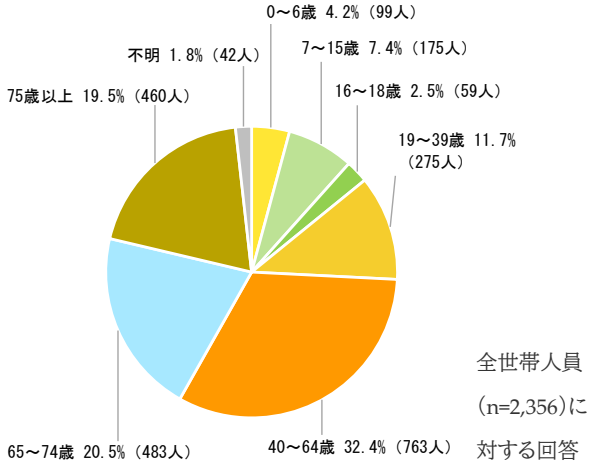
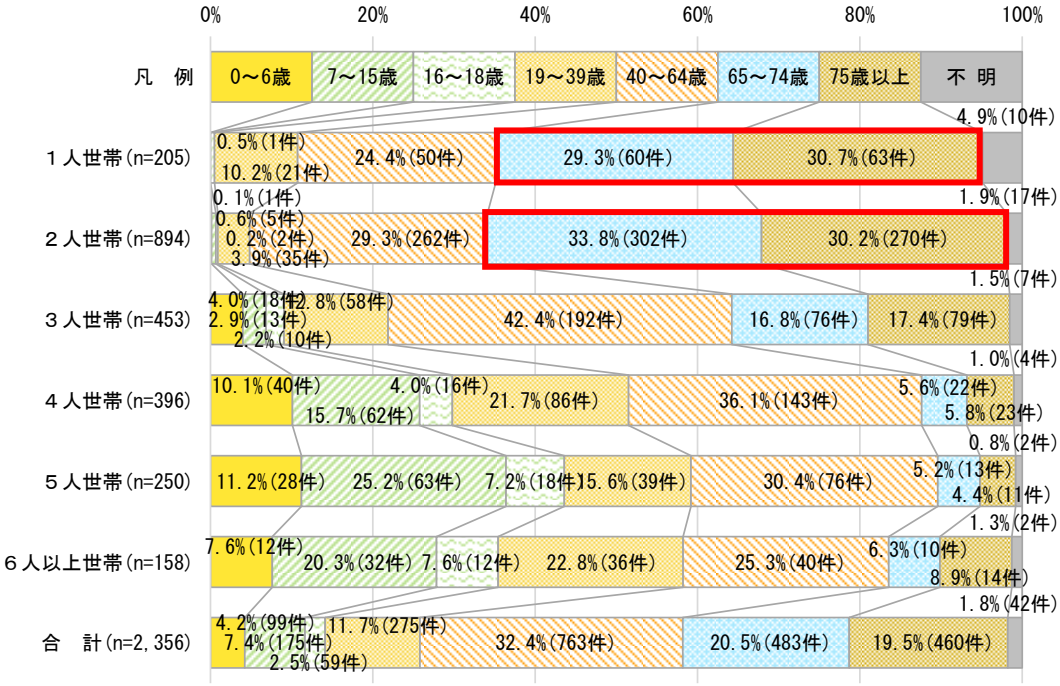


図 1-6 Q3-2.世帯の年齢構成

【年齢構成別】

世帯人数ごとの年齢構成を見ると、「1 人世帯」、「2 人世帯」では構成員が 65 歳以上の割合が高く、高齢者の単身、夫婦の世帯が多くを占める。



全世帯人員(n=2,356)に対する回答

図 1-7 Q3-1.世帯人数(Q3-2.年齢構成別)

【世帯内の運転が困難な方の有無】

世帯内に運転が困難な方がいるかについては、「いる」と回答した割合が 27.8%となっている。

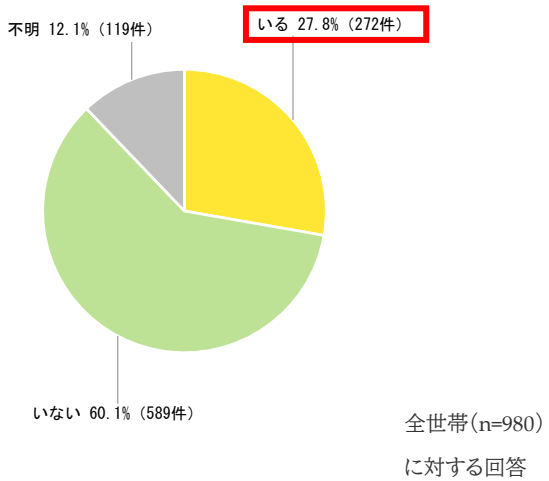


図 1-8 Q3-1.世帯内の運転が困難な方の有無

Q4. 年齢

回答者の年齢は、「⑤65～74 歳」が 23.7%と最も多く、続いて「④50～64 歳」が 23.6%、「③30～49 歳」が 20.3%で、50 歳以上が約 7 割を占める。

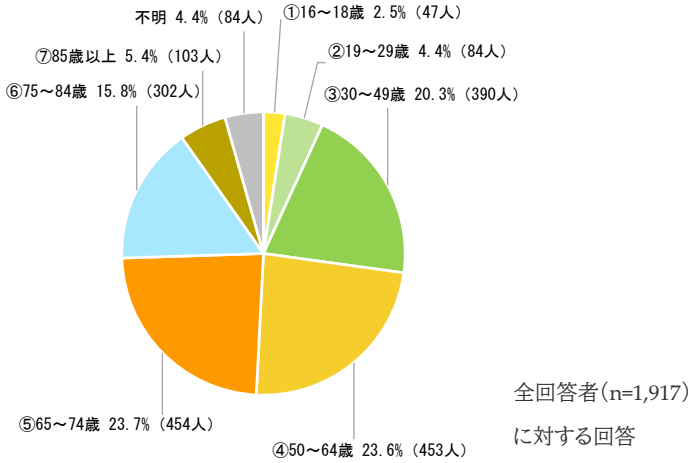


図 1-9 Q4.回答者の年齢

【居住地域別】

居住地域別に見ると、小平町は「49 歳以下」の回答者が多い一方、初山別村は、「65 歳以上」の回答者が多い。

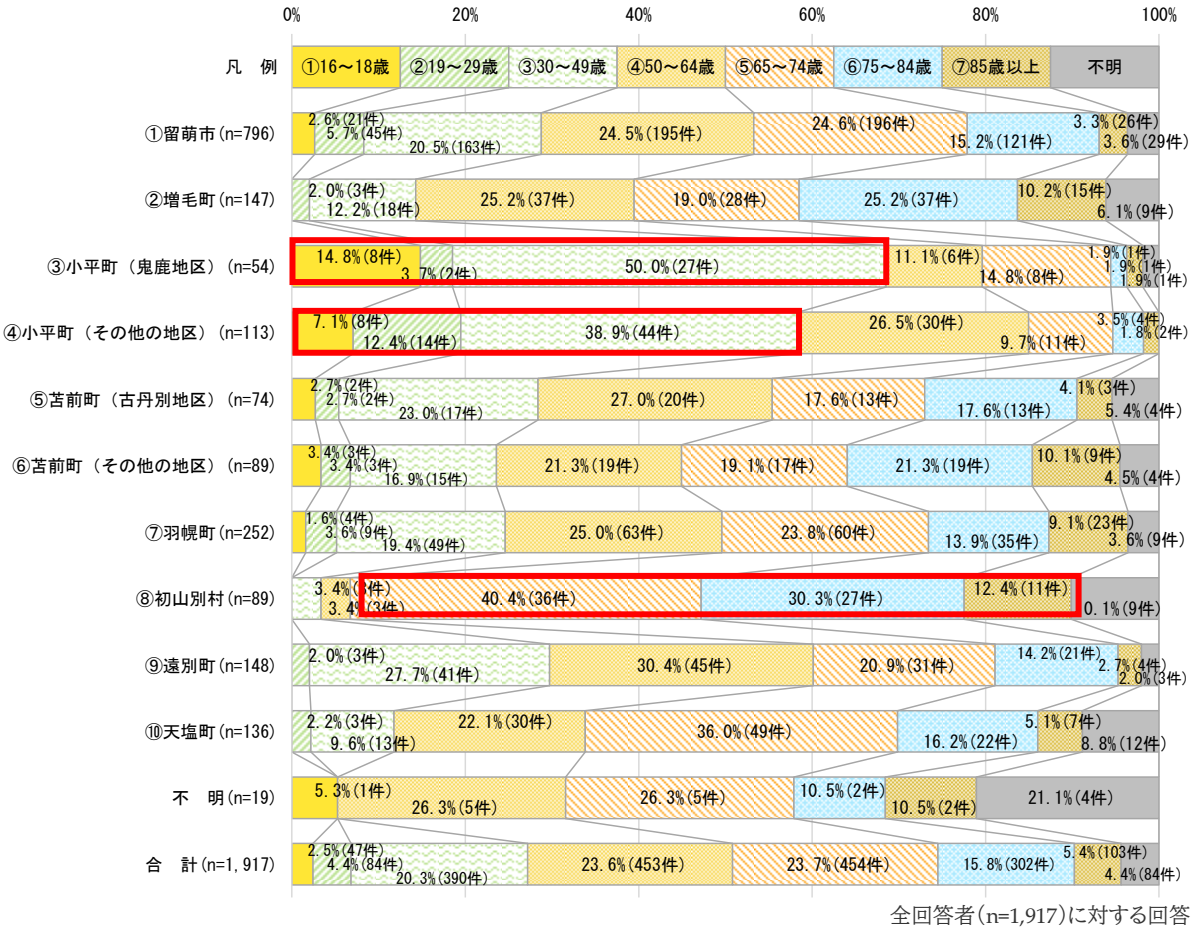


図 1-10 Q4.回答者の年齢別（Q1.居住地域別）

Q5. 性別

回答者の性別は、女性が 50.7%、男性が 46.9%となっている。

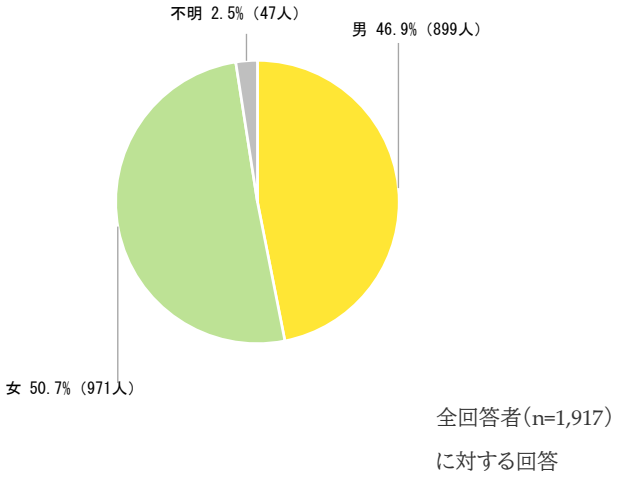


図 1-11 Q5.回答者の性別

Q6. 自動車運転免許証の所持

運転免許の所持状況は、「①持っている」が 75.4%、「②持っていない」が 22.4%であった。

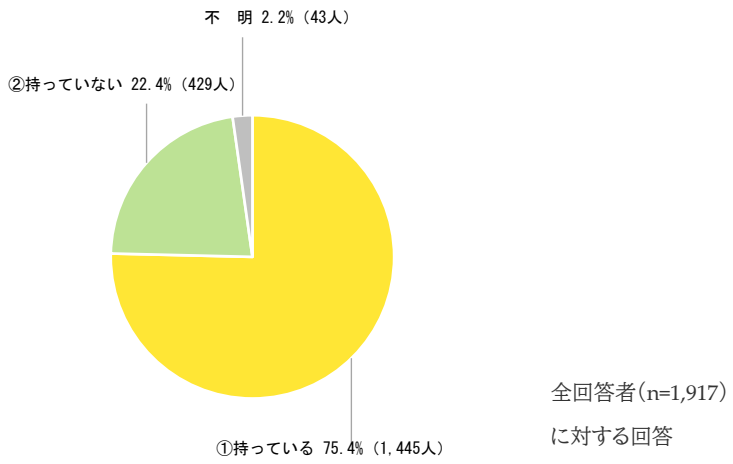


図 1-12　Q6.回答者の運転免許の所持状況

【年齢構成別】

年齢構成別に見ると、75 歳以上では「②運転免許を持っていない」と回答した割合が多い。

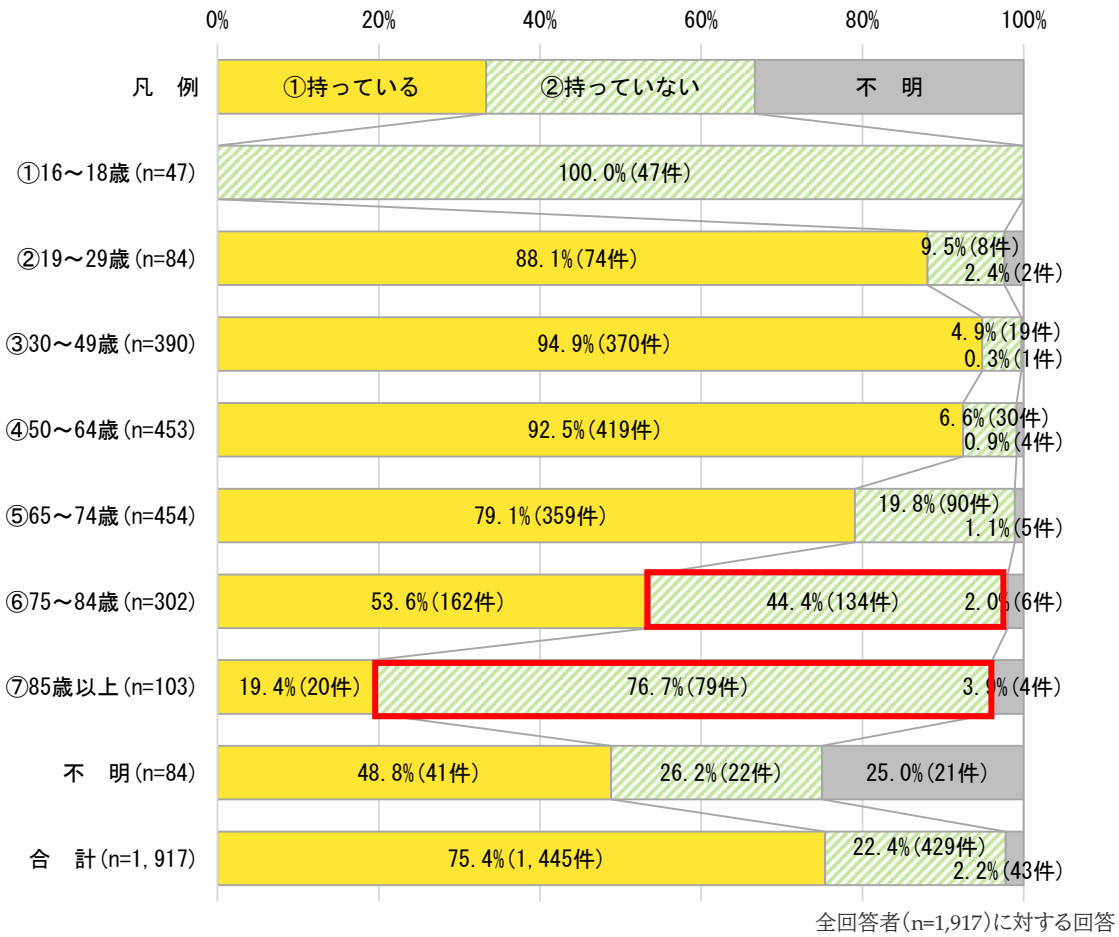


図 1-13　Q6.回答者の運転免許の所持状況（Q4.年齢構成別）

Q7. 普段運転できる車の有無

普段運転できる車については、「①持っている」と回答した割合が 90.7%と最も多い。

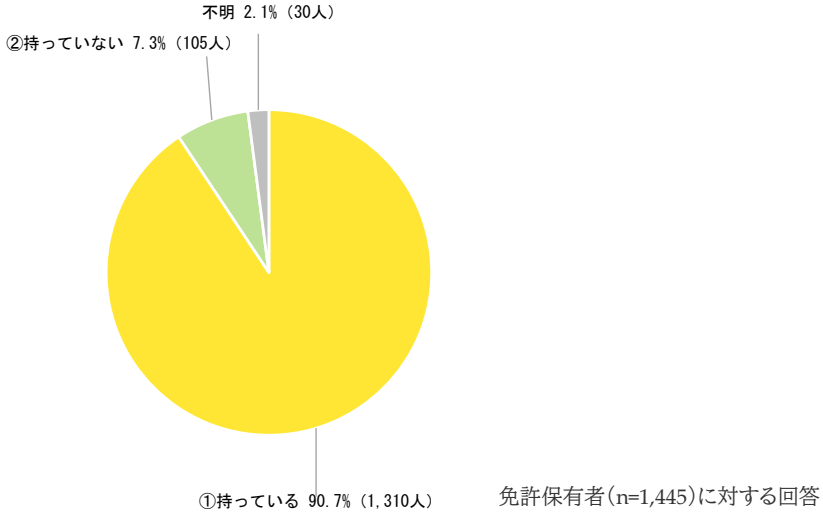


図 1-14 Q7.普段運転できる車を持っているか

【年齢構成別】

年齢構成別に見ると、「30 歳以上」ではすべての世代で普段運転できる車を持っている割合が 90%以上となっている。

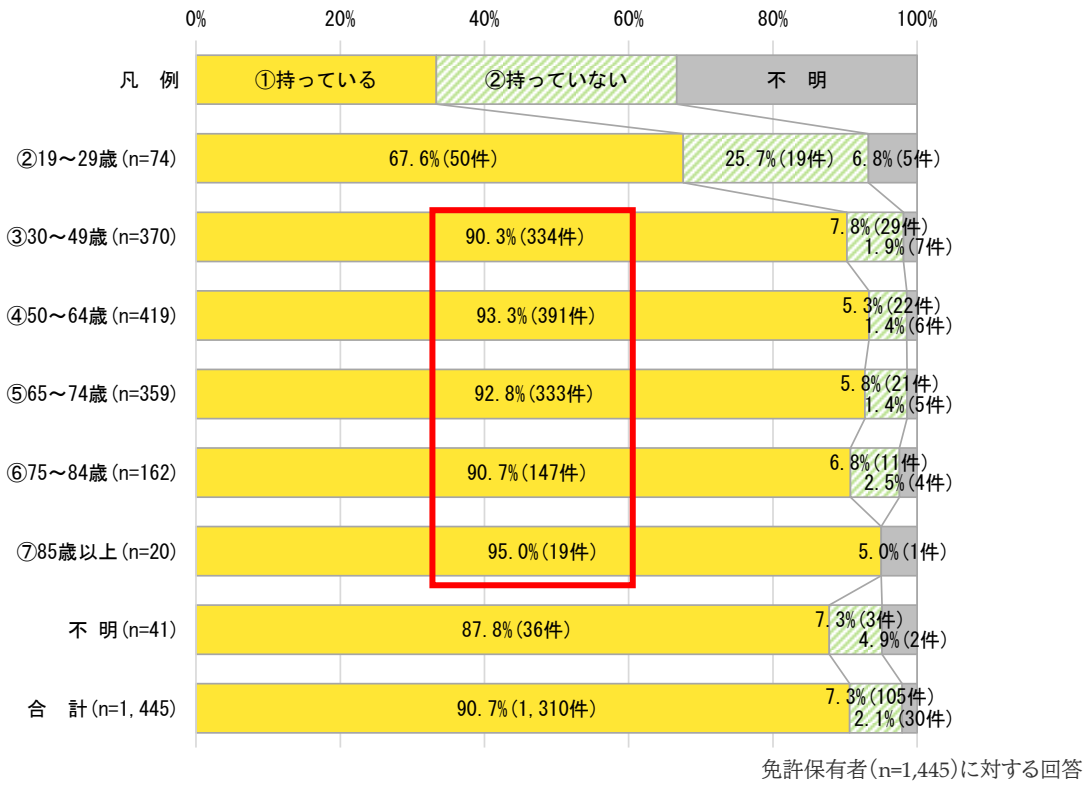


図 1-15 Q7.普段運転できる車を持っているか（Q4.年齢構成別）

Q8. Q7で「普段、運転できる車を持っている」と回答した方への質問

Q8－1. 自家用車を利用する一番の理由

自家用車を利用する理由は、「①いつでも利用できる」と回答した割合が多く84.1%となっている。他の理由としては「④荷物を気にせず移動できる」が 5.0%、「③家族連れ等で乗車できる」が3.4%となっている。

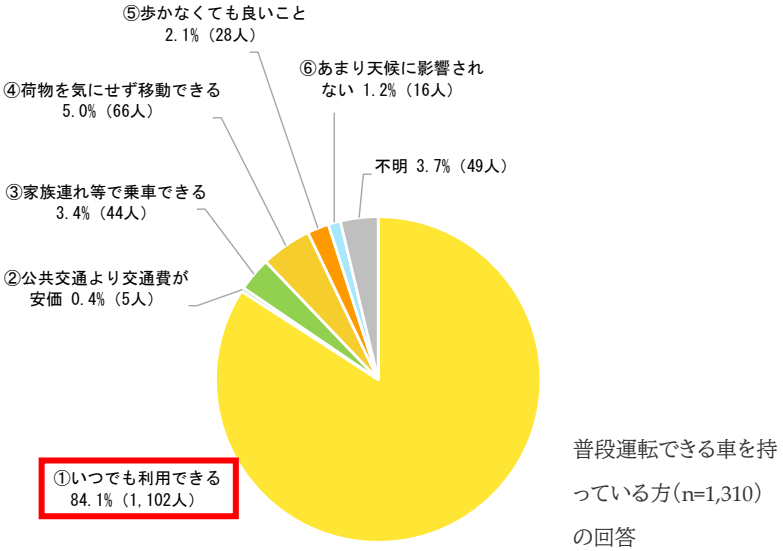


図 1-16　Q8-1.自家用車を利用する一番の理由（Q7 で普段運転できる車を持っている方）

【年齢構成別】

年齢構成別に見ても全世代で「①いつでも利用できる」が８割以上と多い。

図1-17　Q8-1.自家用車を利用する一番の理由（Q4.年齢構成別）

【年齢構成別(「いつでも利用できる以外の理由」】(Q8－1. 自家用車を利用する一番の理由)

「①いつも利用できる」以外の理由を年齢構成別に見ると、「⑤65～74 歳」の「④荷物を気にせず移動できる」、「②19～29 歳」の「③家族連れ等で乗車できる」がやや多くなっている。

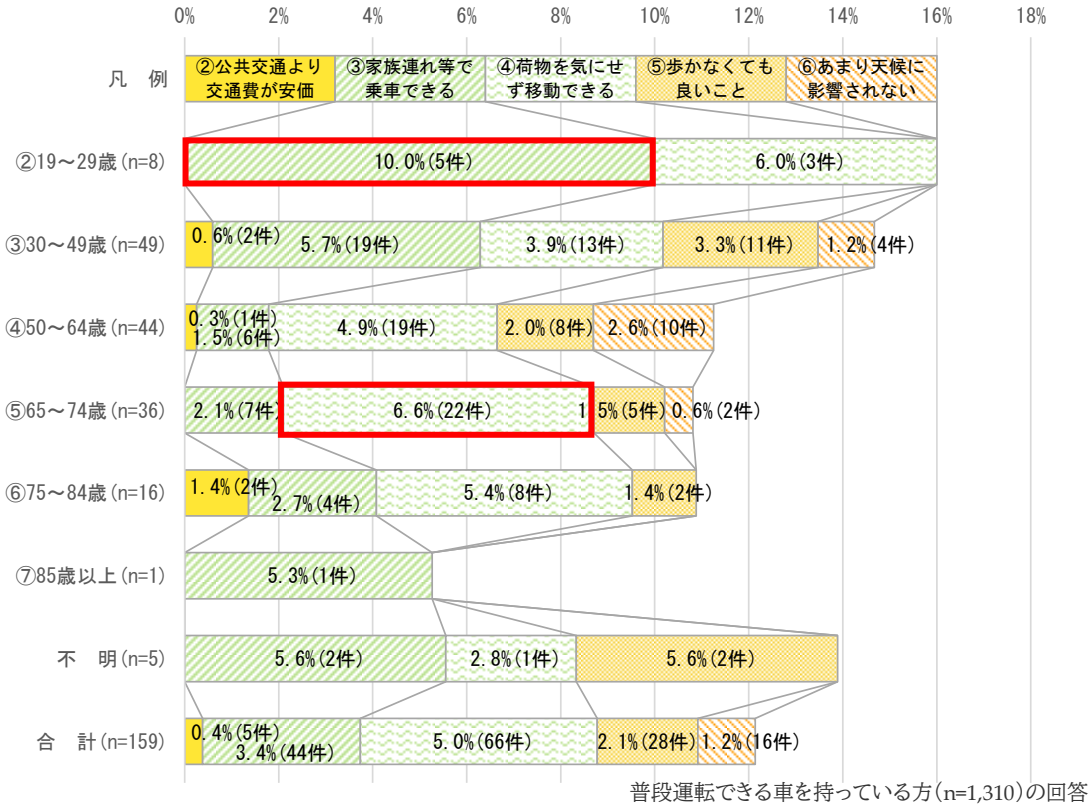


図 1-18　Q8-1.自家用車を利用する一番の理由
(①と回答した回答を除いた割合)(Q4.年齢構成別)

Q8－2―1. 車を運転する年齢（車の運転を取りやめる年齢）

何歳まで運転したいかについては、「③75～84 歳」が 57.5%と最も多く、続いて「②65～74 歳」が 23.4%、「④85 歳以上」が 12.1%となっている。

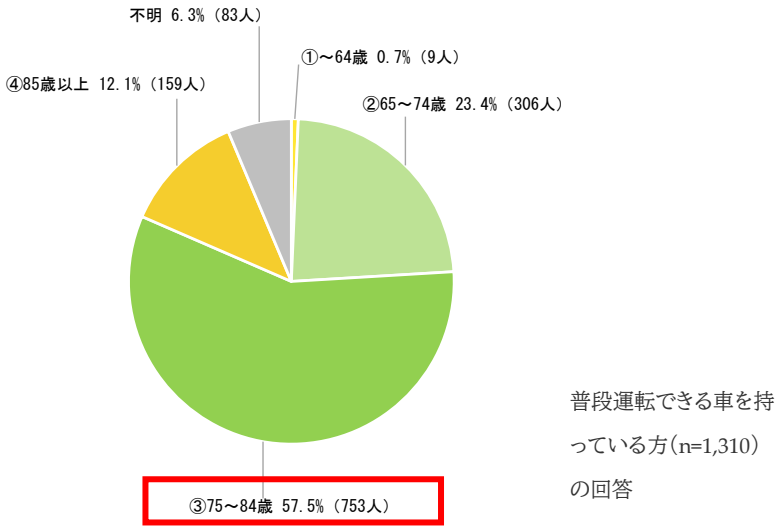


図 1-19 Q8-2-1.何歳まで運転したいか

（Q7 で普段運転できる車を持っている方のみ回答）

【年齢構成別】

年齢別に見ると、「75 歳以上」では「④85 歳を超えても運転を続けたい」と答えている割合が多くなっている。

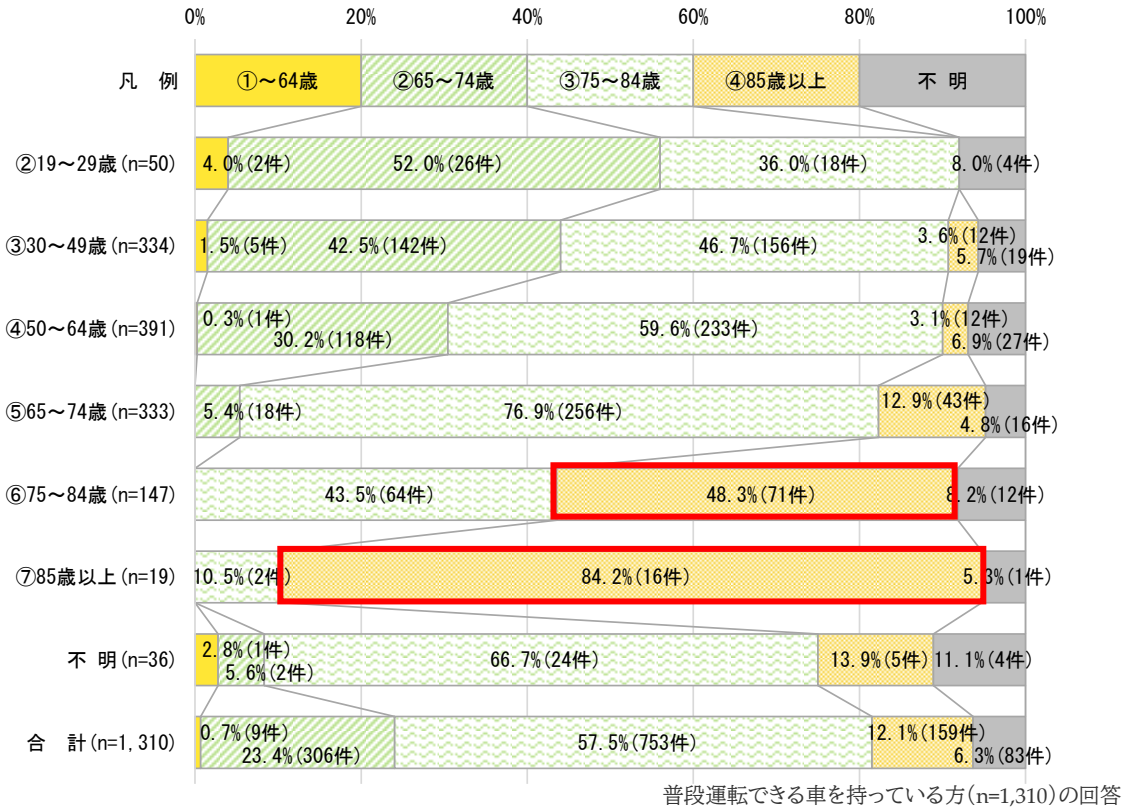


図 1-20 Q8-2-1.何歳まで運転したいか（Q4.年齢構成別）

Q8－2－2. 運転が困難になった場合の移動手段

運転が困難になった場合には「①バス等を利用する」が 52.7%と最も多く、続いて「②家族等の送迎」が 15.9%、「③徒歩・自転車」が 9.9%となっている。

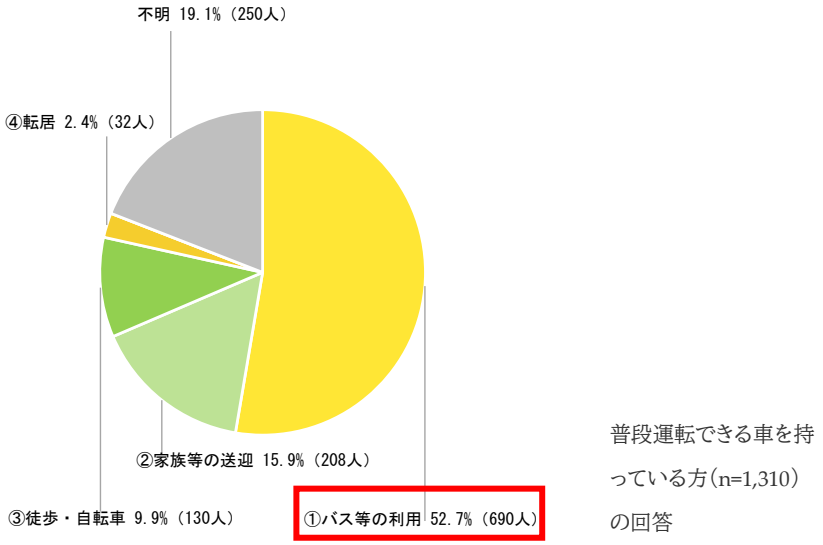


図 1-21 Q8-2-2.運転が困難になった場合の移動手段
（Q7 で普段運転できる車を持っている方のみ回答）

【居住地域別】

居住地域別に見ると、小平町の鬼鹿地区、天塩町では「①バス等を利用する」と回答した割合が半数以上となっているが、遠別町では 35.0%と比較的低い。

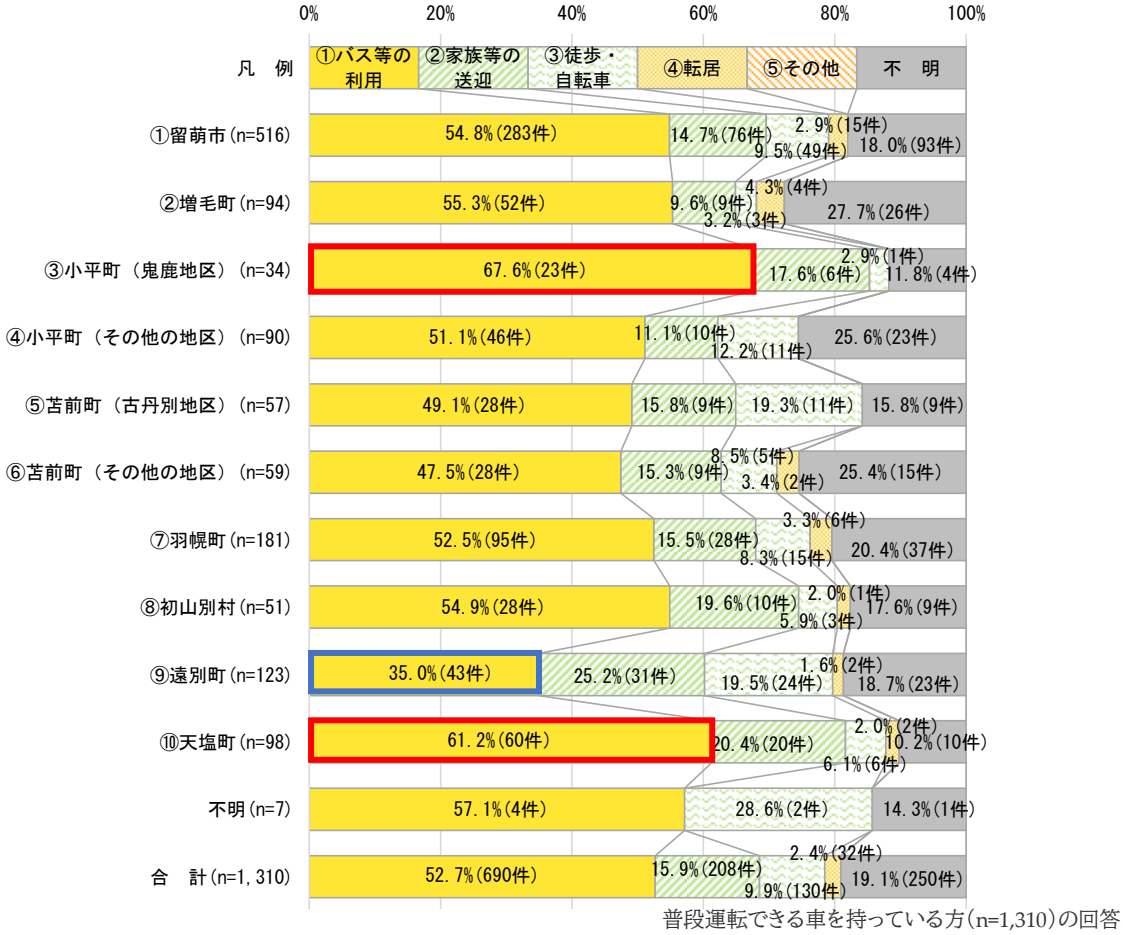
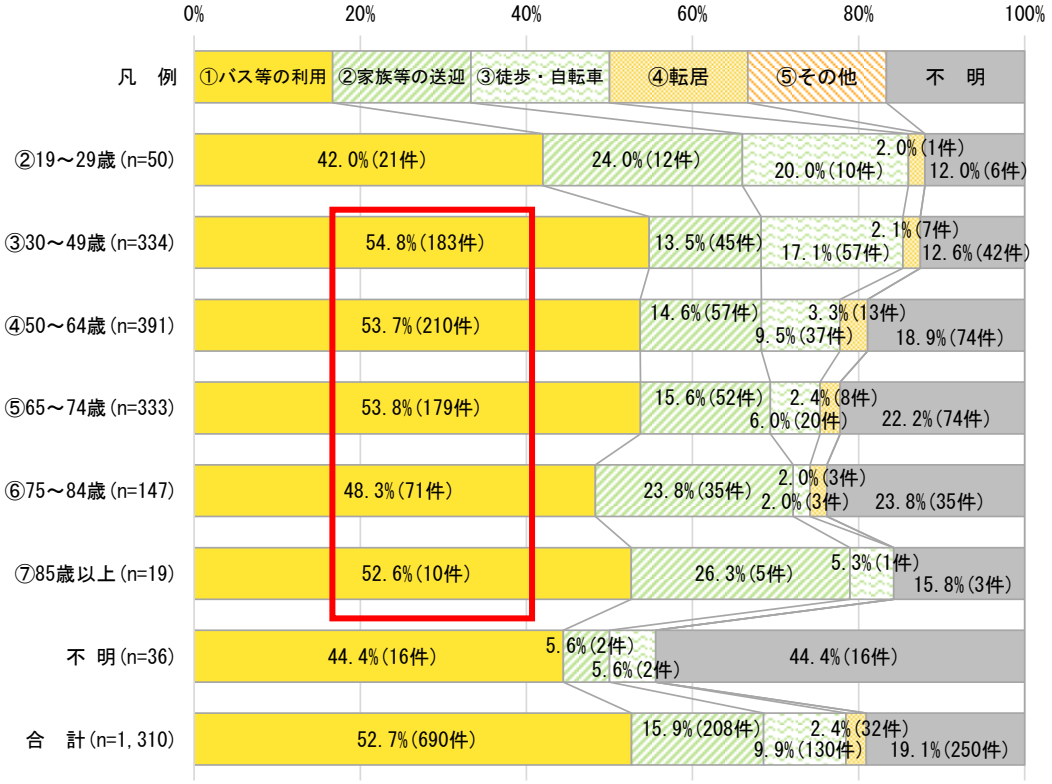


図 1-22 Q8-2-2.運転が困難になった場合の移動手段（Q1.居住地域別）

【年齢構成別】（Q8－2－2. 運転が困難になった場合の移動手段）

年齢別に見ると「①バス等を利用する」と回答した割合がほぼ全世代で半数程度となっている。



普段運転できる車を持っている方（n=1,310）の回答

図 1-23　Q8-2-2.運転が困難になった場合の移動手段（Q4.年齢構成別）

Q8－3. 運転への不安

運転への不安は、「②冬や長距離運転に不安を持つときがある」が 49.5%と最も多く、「①いつも不安」を合わせると 55.0%と、条件つきながらも半数以上が不安を持っている。

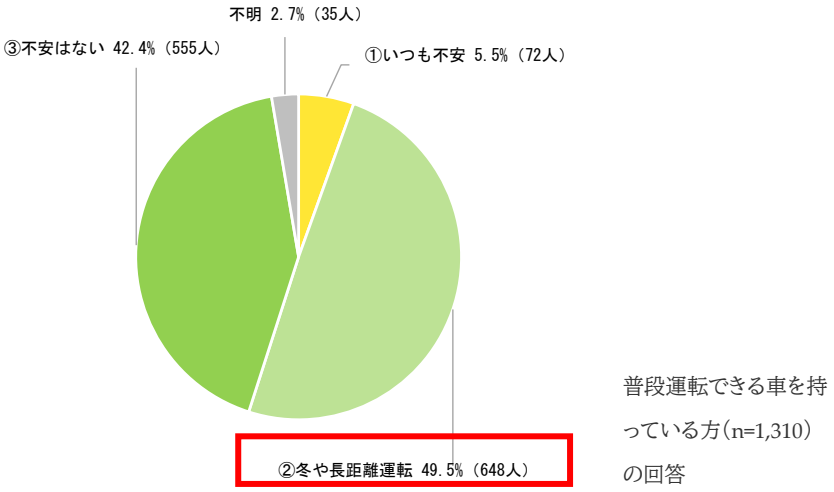


図 1-24 Q8-3.運転に不安を持つときがあるか
（Q7 で普段運転できる車を持っている方のみ回答）

【年齢構成別】

年齢構成別に見ても、全世代で同様に「②冬や長距離運転に不安を持つときがある」が最も多い。

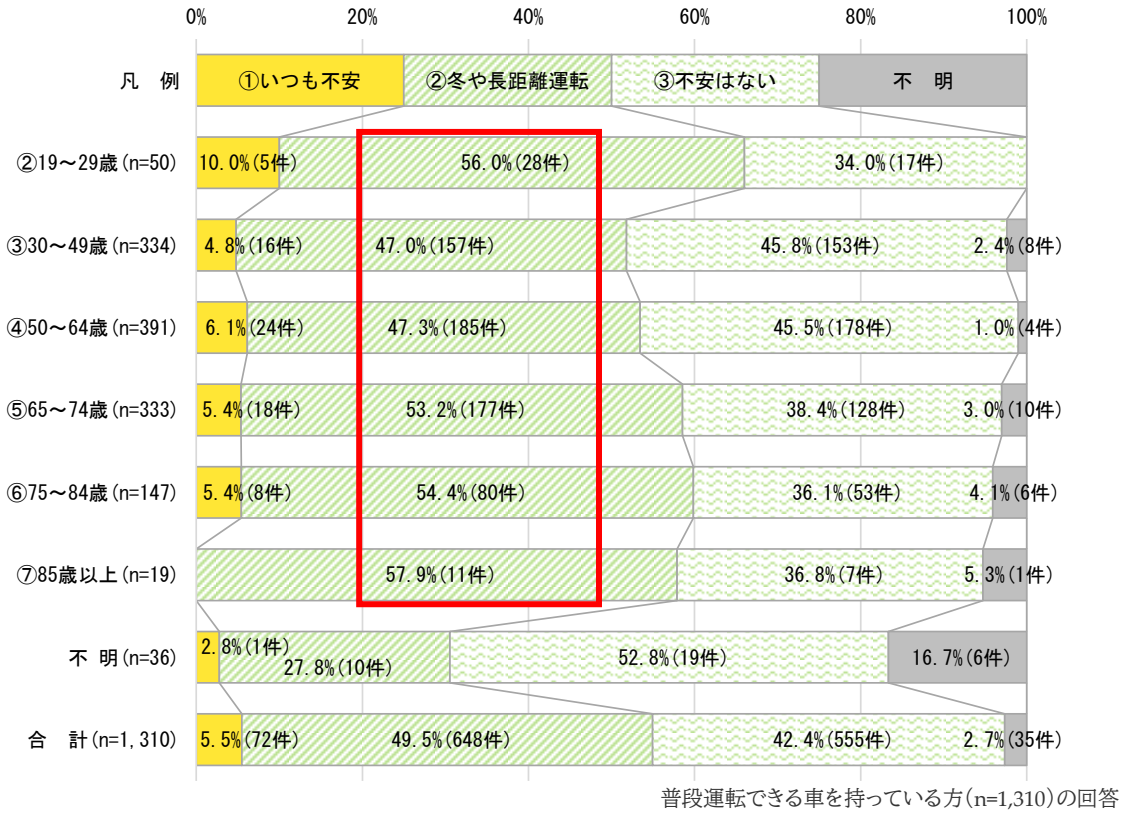


図 1-25 Q8-3.運転に不安を持つときがあるか（Q4.年齢構成別）

Q8－4. 不安の内容（Q8－3で「冬や長距離の運転が不安」を回答した方）

運転時の不安に感じる内容としては、「①冬と長距離の両方の運転が不安」と「②冬の運転が不安」と回答した割合がそれぞれ 46%程度となっている。

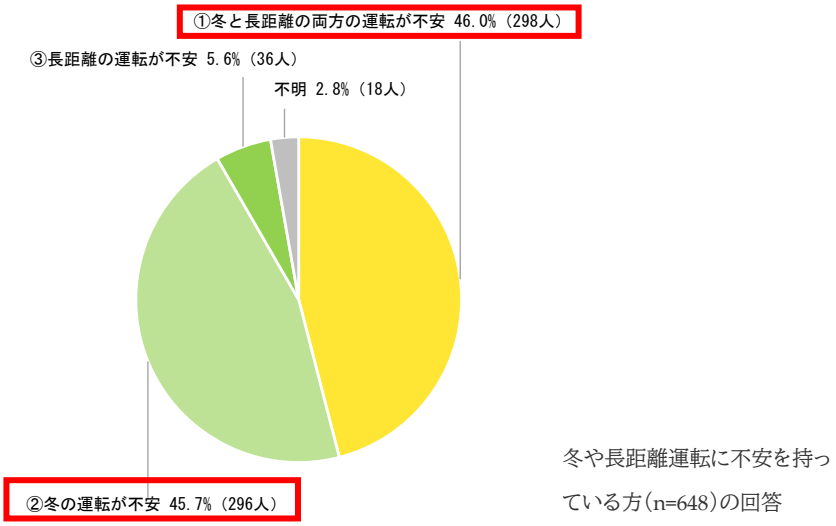


図 1-26　Q8-4.運転について、不安な内容
（Q8-3 で冬や長距離の運転が不安と回答したのみ回答）

【年齢構成別】

年齢別に見ると、「30 歳以上」において年齢を増すごとに「①両方が不安だ」と答えている割合がやや増加する。

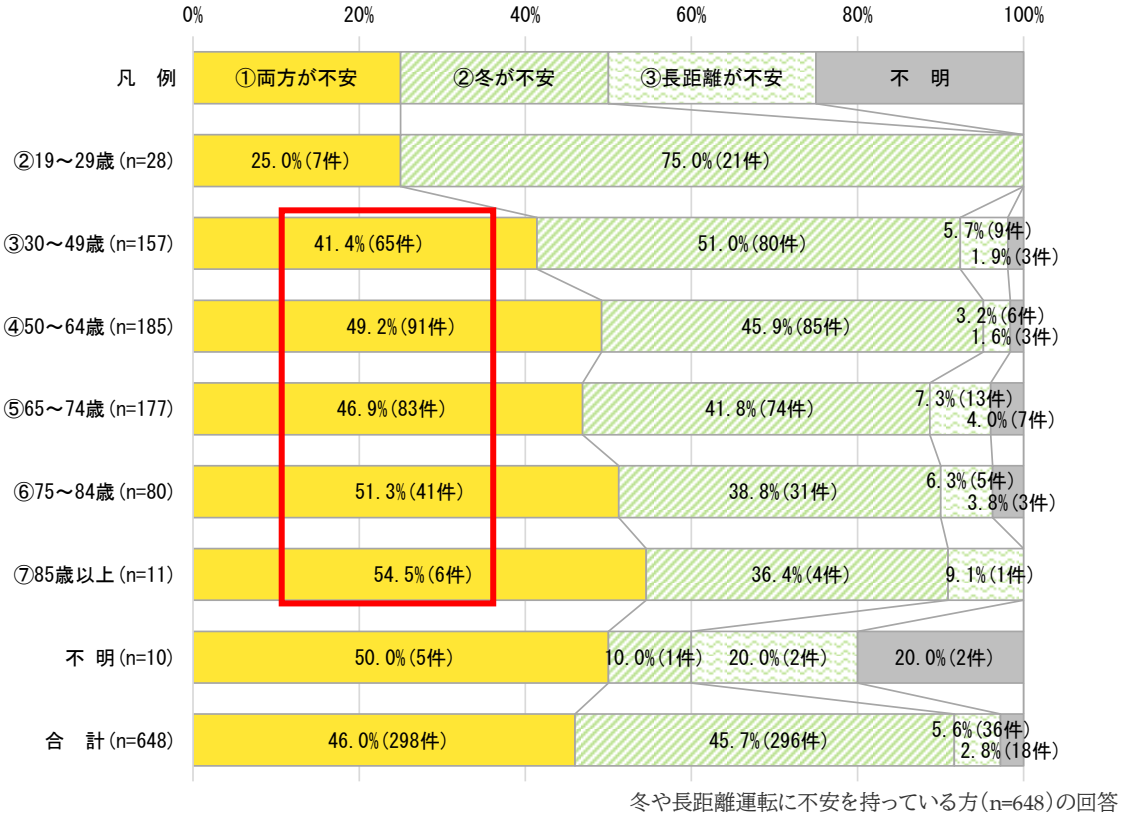


図 1-27　Q8-4.運転について、不安な内容（Q4.年齢構成別）

Q8－5. 事故を回避できる自信

事故を回避できる自信について、「②自信がない」は 50.3%と最も多く、一方で「①自信がある」は 41.4%となっている。

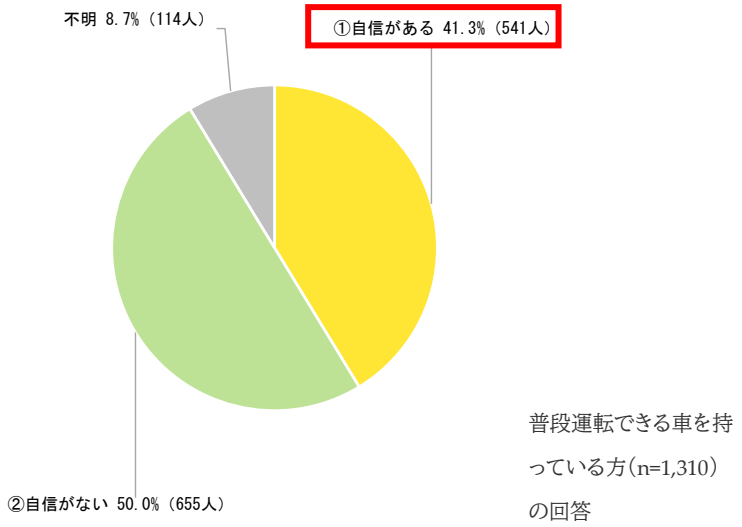


図 1-28 Q8-5.事故を回避できる自信があるか
（Q7 で普段運転できる車を持っている方のみ回答）

【年齢構成別】

年齢構成別に見ると、ほぼ全世代で「②自信がない」が「①自信がある」をやや上回っている。

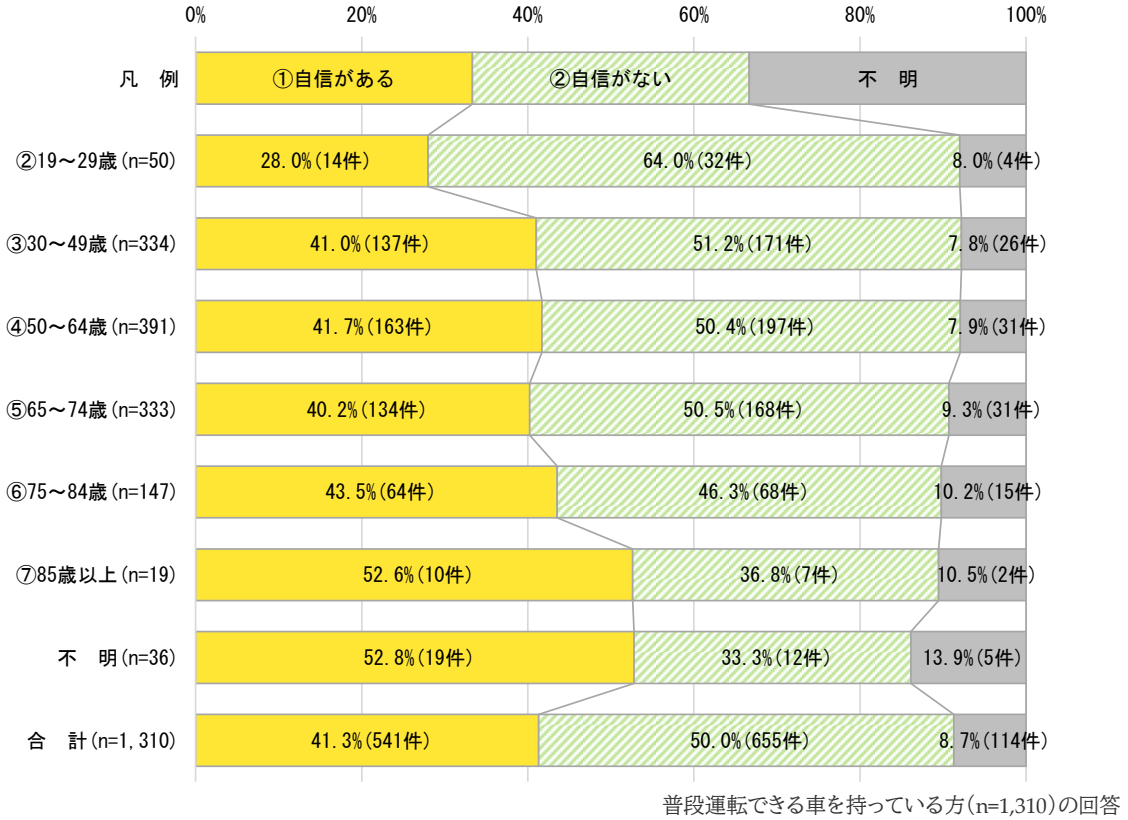


図 1-29　Q8-5.事故を回避できる自信があるか（Q4.年齢構成別）

Q8－6. 免許証返納の特典等の効果（65 歳以上の方）

免許返納の特典があれば「①返納しやすい」と答えた割合が 28.5%となっており、「②少し返納しやすい」と合わせると半数以上となっている。

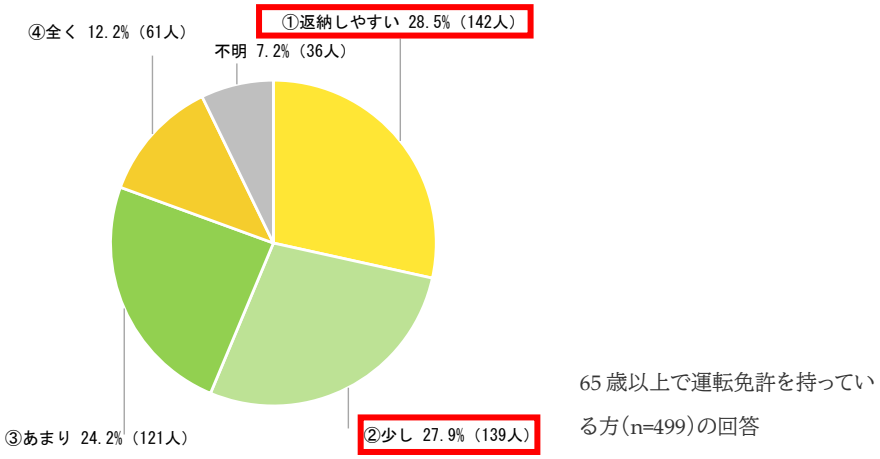


図 1-30 Q8-6.免許返納の特典等があれば、返納しやすくなるか
（Q7 で普段運転できる車を持っていると回答しており、65 歳以上の方のみ回答）

【年齢構成別】（65 歳以上の方）

年齢構成別に「①返納しやすい」と「②少し返納しやすい」の合計を見ると、年齢が進むに従って免許返納の特典等の効果がやや減少する。

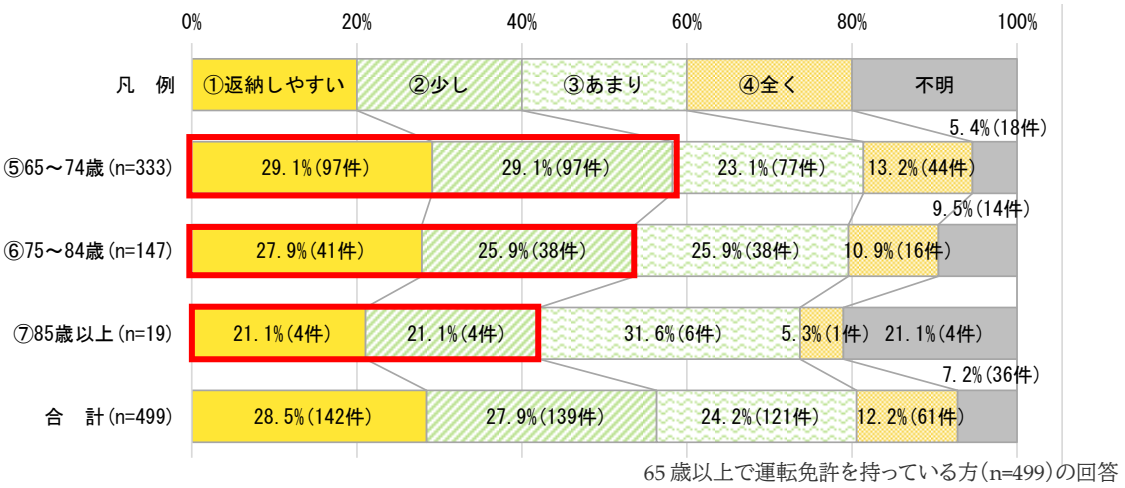


図 1-31 Q8-6.免許返納の特典等があれば、返納しやすくなるか
（Q4.年齢構成別：65 歳以上の方）

Q9. 自分以外が運転する自家用車での移動状況

（Q6で「自動車運転免許証を持っていない」を回答した方、またQ7で「普段、運転できる車を持っていない」を回答した方）

自分以外が運転する自家用車では「③車で移動する方法はない」と答えている割合が14.6%となっている。

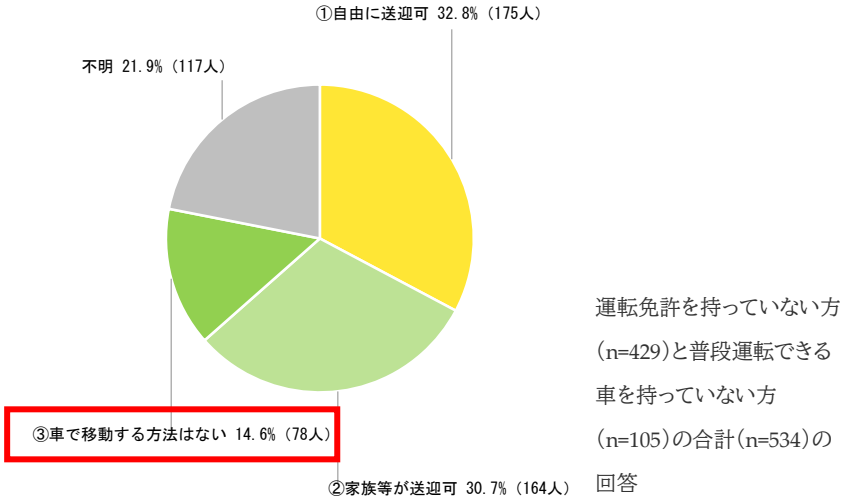
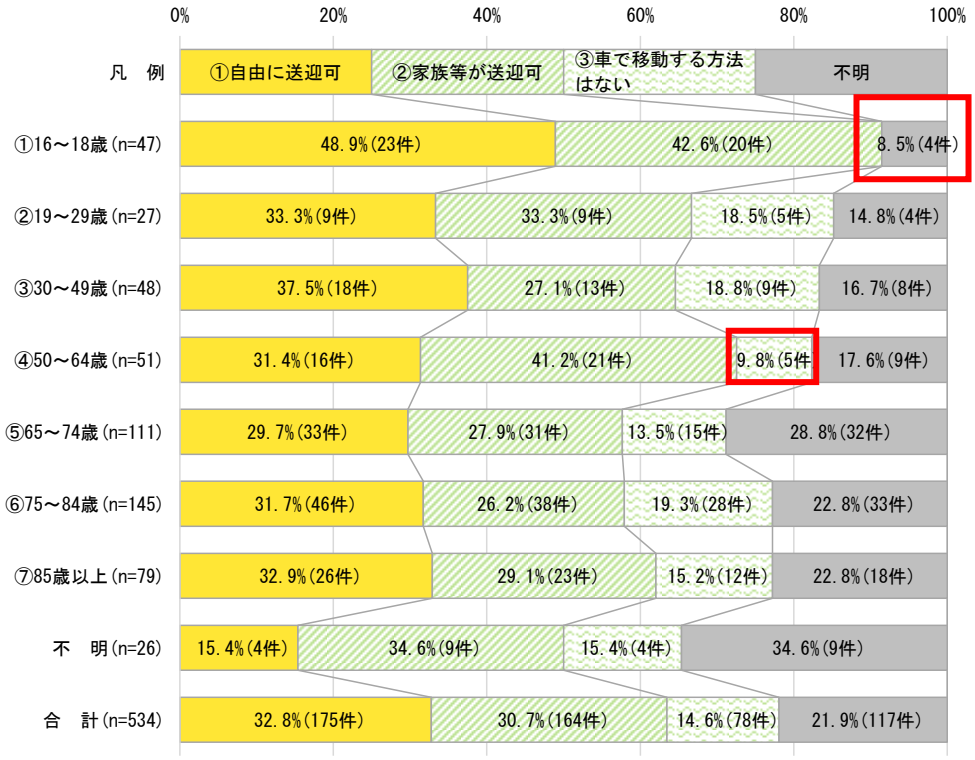


図 1-32　Q9.自分以外が運転する自家用車での移動状況

【年齢構成別】

年齢構成別に見ると、「③車で移動する方法はない」は「①16～18 歳」の回答が無く、「④50～64 歳」では 9.6%と他の年齢構成よりも低い。

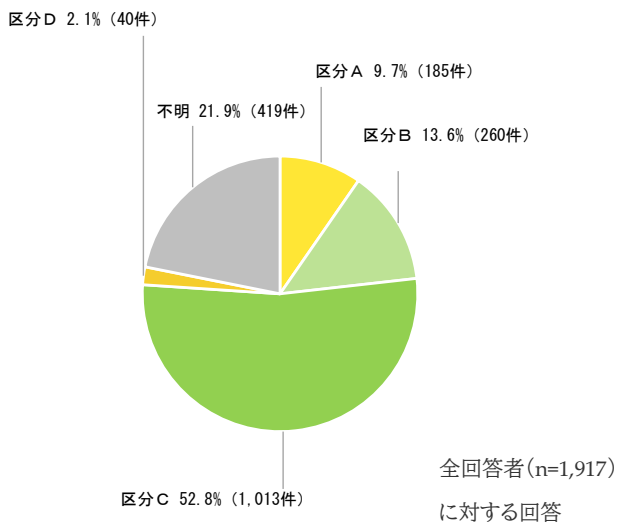


運転免許を持っていない方(n=429)と普段運転できる車を持っていない方(n=105)の合計(n=534)の回答

図 1-33　Q9.自分以外が運転する自家用車での移動状況（Q4.年齢構成別）

Q10. 固定電話、携帯電話、スマートフォンの所持状況

電話の所持状況についてはスマートフォンを保有している（複数回答のうち、1つでも「③スマートフォン（スマホ）を保有」と回答した方、下記円グラフのうち C 区分）と答えている割合が最も多く、52.8%となっている。



（１）アンケート設問（複数回答）

回答	該当内容
①	固定電話のみ
②	携帯電話（ガラケー）を保有
③	スマートフォン（スマホ）を保有
④	いずれも保有していない
―	不明

（２）集計区分

区分	集計回答とした内容
A	①のみ
B	②のみ及び①＋②
C	③のみ、①＋③、②＋③ 及び①＋②＋③
D	④のみ

図 1-34　Q10.固定電話、携帯電話、スマートフォンの所持状況

【年齢構成別】

年齢構成別に見ると、年齢が増すごとにスマートフォンの所持率が下がっているが、携帯電話の所持率は上がっている。

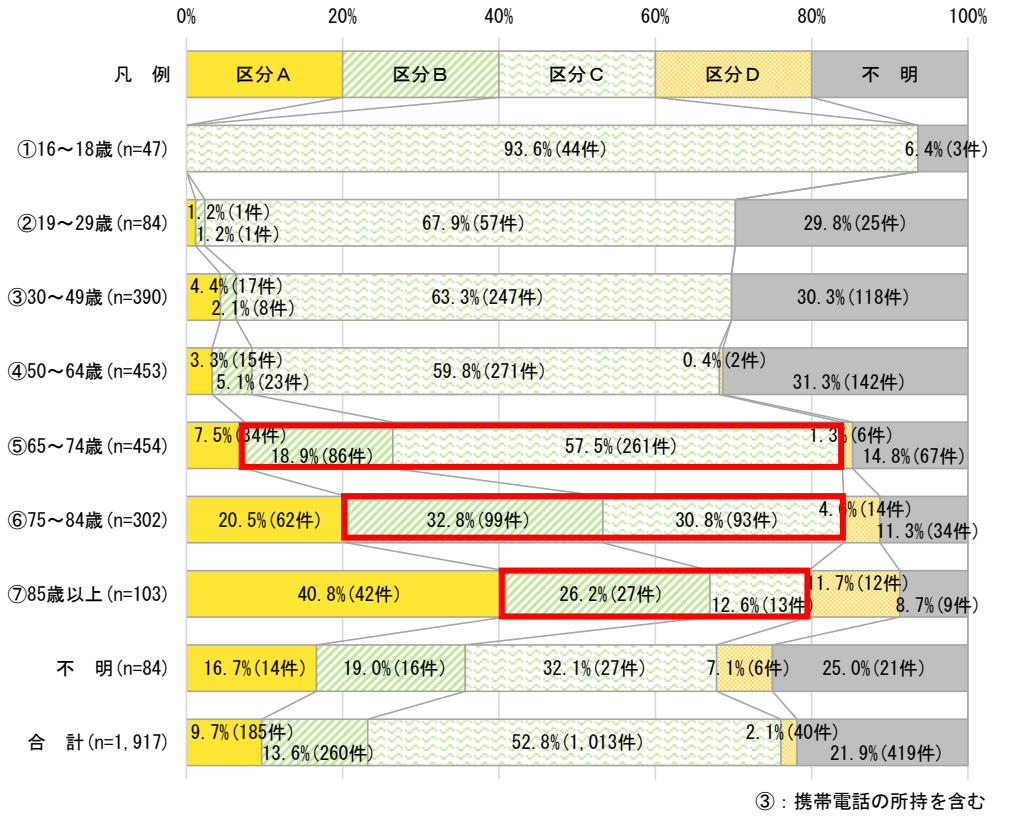


図 1-35　Q10.固定電話、携帯電話、スマートフォンの所持状況（Q4.年齢構成別）